# 青少年の国際交流の推進

令和8年度予算額　45百万円
(前年度予算額　45百万円)

文部科学省

## 背景・課題

- 国際化が進展する中で、青少年が、自らが国際社会の一員であることを自覚し、自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々と共生していくことが重要な課題。
- 青少年に対し、国内外における異文化体験や共同生活体験等の機会を充実させ、次代を担うグローバル人材の育成につながるきっかけを提供していくことが必要。

### 平成9年6月　デンバーサミット「日独青少年交流の強化についての共同発表」

[日]橋本龍太郎総理大臣×[独]コール首相

両首脳は、両国の若い世代が交流できる可能性を拡大し、青少年期に相手国とその文化を自ら体験する機会が与えられるよう尽力する。

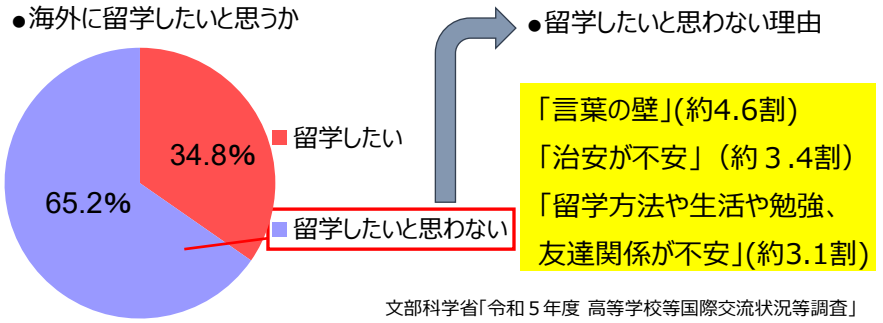
両首脳は、青少年交流を日独文化関係の一つの重点事項と認識している。両首脳は、関係諸機関に対し、青少年・生徒・学生・勤労青年の交流を活発にするためにあらゆる方策を探るよう委ねる。

### 平成14年7月「日韓共同未来プロジェクト(青少年交流の推進)」

[日]小泉純一郎総理大臣×[韓]金大中大統領

（略）1．基本的コンセプト
○ W杯の日韓共同開催の成功を記念し、今後、両国間の交流を更に推進することを目的として、両国政府が必要な支援を行う。
○ W杯を記念して、「青少年交流」及び「スポーツ交流」の日韓共催案件を支援対象とする。
2．　支援の具体的内容
○「青少年交流」支援
・日韓間の青少年交流助成の推進。

- 若者の海外への関心を高めることが課題。
  高校生のうち約35%が「留学したい」、約65%が「留学したいと思わない」




文部科学省「令和５年度 高等学校等国際交流状況等調査」

## 事業内容

### 青少年国際交流推進事業　6事業@7,251千円

**相手国政府との合意**に基づき、青少年の交流（派遣・受入）の機会を提供。

#### 日独交流（昭和47年度～）

●概要
青少年指導者、勤労青年及び学生青年リーダー等が、それぞれのテーマに基づき両国の教育環境や文化を学びながら交流を実施。

●事例
青少年指導者を対象に、子供の貧困やメディアリテラシー等の各々のテーマに基づき、教育現場視察等を通じた相互理解を促進。

#### 日韓交流（平成16年度～）

●概要
韓国語又は日本語を第2外国語として学ぶ高校生が、歴史や文化を学びながら、交流を実施。

●事例
双方の高等学校の見学や授業・部活動等への参加、文化施設の見学等を通じて、相互理解を推進。

#### 企画委員会の開催　1,420千円

●概要
日独交流事業の実施にあたり、事業の企画立案や両国の青少年教育政策などについて議論を行う日独省間会議を開催。

| アウトプット（活動目標） | 短期アウトカム（成果目標） | 中期アウトカム（成果目標） | 長期アウトカム（成果目標） |
|---|---|---|---|
| ・青少年及び青少年指導者に国際交流の機会を提供 | ・「青少年の国際交流の推進」事業に参加し、交流を行った日本の青少年の外向き志向の平均値の増加 | ・事業参加者が成果発表を行う際の1人当たり人数を60人以上とする | ・「これまでの学習を通じて身につけた知識・技能を地域・社会での活動に生かしている」割合の増加 |

（担当：総合教育政策局国際教育課）